

歴史を感じる

安田会長の「まちばたけ温故知新」

のコーナー

前号で屋根の壊れた高清水神社の記事を書いたが、このほど屋根がきれいに葺き替えられたと、嬉しい情報が寄せられた。地元の神社の朗報とあり、さっそく管理者の葛林博さんに取材を申し込み、お話を伺ってきた。

屋根は、葛林さんの叔父さんが近所に建築工事に来たついでに施工してくれたとのこと。

後日改めて、葛林さんに現地を案内していただくと、鳥居も新調され、古色蒼然たる元の姿に戻っていた。社殿にも通されて、昭和二十五年に作られた木札を拝見することができた。そこには地元の方々の名を確認できたが、残念ながら寄進に関わった人がほとんど亡くなっているようだ。さらに、紙ベースでの資料も残されていないので、情報に乏しい現状。

しかし、地元でこの神社を活用したいという機運が高まっているから心強い。こうなると歴史をひも解きながら、伝説の高清水神社の由来にせまってみたいと、思いがたかぶる。

そして解明した先には、「ふるさと祭り」のシンボルの存在として育んでいきたいと希望を持っている。

例えば、子どもたちが手作りの神輿を担ぐ姿を想像しただけでも、ワクワクするのである。

PTA会長 安田勝寿



←神社の写真です。

昭和25年に地元の有志の方々の寄付で神社が再建されました。大工さんは地元の坂下氏が協力してくれたそうです。



コーディネーター
ありがとうございます
まげいます

ひな人形で
にっこり

町畑小学校では、今年度も多くの教育ボランティアの方々から教育活動に参加していただきました。おかげさまで、子どもたちは笑顔いっぱい、安全で充実した教育活動を行うことができました。

これらの活動をコーディネートしてくださっているのが、+文字悦子さんと大柳利子さんです。お二人には、二十四年度の地域学校連携協議会の立ち上げからご協力いただいています。

これからも、町畑小学校の子どもたちのためによろしくお願ひ致します。



今年も図書室に、ひな壇が飾られる時期がきました。「きれい！」「七段飾りは迫力あるね！」と子どもたちも大喜び。

このひな壇の飾り付けは、今年で三十五回目を数えます。ひな壇には説明書などはなく、母親委員会のみならず、以前の写真を頼りに四苦八苦ししながら、飾り付けをしてきています。母親委員会のみならず、本当にありがとうございます。

このすてきな町小の伝統を、これからもずっと続けていきたいですね。

